

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	論理国語（論理国語）	2	普通科	2
教材・副教材	論理国語（桐原書店） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いづな書店）			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること			
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業、2・3 継続履修です。 ○論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する力を培う。 ○個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫する力を身につける。 ○論理的な文章や実用的な文章を読みその内容や形式について批評したり討論したりする能力を育成する。 ○自然、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて新たな観点から自分の考えを深め、読書に親しむ態度を身につける。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	発見への誘い 《読者》《芸術》 言語と認識 《言語》《科学》	<ul style="list-style-type: none"> ○評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○具体的な事例と筆者の意見に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ○挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 ○「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。 ○社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解す
	第2回	人間を見つめる 《情報》	
	第3回	学問のまなざし 《環境》	
後 期	第4回	社会を捉え直す 《近代》《社会》 イメージを読む 《芸術》《メディア》	
	第5回	論理の力	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
国語	文学国語（文学国語a）	1	普通科	2	
教材・副教材	文学国語（桐原書店） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いいずな書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <p>○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。</p> <p>○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。</p> <p>○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。</p> <p>○人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 課題の点検	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> 発表態度の観察	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> 発表態度の観察		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	随筆	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り, ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し, 主人公の内面と苦悩について考える。 ○小説を読み, そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と, 俳句に関する評論を読み, 詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み, 現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回	小説1	
	第3回	小説2 詩歌	
後 期	第4回	小説3	
	第5回	小説4	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	古典探究（古典探究）	3	普通科	2
教材・副教材	精選 古典探究 古文編（数研出版） 読解を大切にする 体系古典文法（数研出版） 入試対策ベストセレクション古文単語 3 2 5（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）		精選 古典探究 漢文編（数研出版） 必携 新明説漢文（尚文出版）	
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業、2.3年継続履修です。</p> <p>○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。</p> <p>○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話1 (古文) 小話 (漢文) 歌物語 (古文)	○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。
	第2回	詩1 (漢文) 随筆1 (古文) 史記1 (漢文) 軍記物語 (古文)	○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。 ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
	第3回	思想1 (漢文) 随筆2 (古文) 小説1 (漢文) 日記1 (古文)	○随筆に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて考えを深める。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。
後期	第4回	作り物語1 (古文) 詩2 (漢文) 歴史物語1 (古文)	○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○詩歌に関するさまざまな作品を読み、考えを深める。 ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。 ○作品の背景も踏まえながら、近世小説の内容を的確に読み取る。
	第5回	思想2 (漢文) 文1 (漢文) 近世小説1 (古文)	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	国語探究（国語探究a）	2	普通科	2
教材・副教材	高等学校 現代の国語（第一学習社） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能，自分の考えを多彩に表現する力を身につけ，言葉を通して社会と関わろうとする態度を養う。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○言葉の役割や表現の特色を理解し，自らの考えを表現するための語彙を豊かにすること。</p> <p>○論理的な文章や実用的な文章を読み，それに対して適切な根拠を用いながら自らの考えを表現すること。</p> <p>○目的や課題に応じて情報を収集し，整理したり話し合ったりしながらまとめること。</p> <p>指導については，次の点に配慮する。</p> <p>○言葉の役割や表現の特色を理解する際は，一般的な知識としての理解に終始することなく，場面や手段に応じた使い分けを習得する。</p> <p>○文章の種類による構成や展開の仕方の特徴を理解できるよう，多くの論理的な文章や実用的な文章を読む。</p> <p>○他者の考えを聞き，自らの考えを広げ，深められるよう，話し合いの活動を適宜行う。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：様々なテキストを通して，その内容や背景に関する知識や教養を身につけ，実社会に役立つ力を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して，自己の意見を書いたり話したりして表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通して，自己の学習課題を分析し，解決する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	実社会に必要な国語の知識や技能をもとにし，自分の考えを多彩に表現する力を身につけている。	言葉を通して社会と関わろうとする態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	実用的な文章 論理的な文章	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事や報道文を読み、表現の特徴に注意して筆者の意図を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○小論文の型を習得し、自己評価と相互評価を行い、表現効果を吟味して論理的文章を書く力を養成する。 ○社会と人間の在り方を主題とする意見文を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図、様々な情報を参考にして実用的な文章や論理的な文章を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回	小論文・意見文	
	第3回	文章の比較・発表	
後 期	第4回	内容読解・要約	
	第5回	小論文・意見文	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
地理歴史	地理探究（地理探究）		3	普通科	2
教材・副教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図(帝国書院) 最新地理図表G E O（第一学習社） データブックオブザワールド(二宮書店)				
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的事象の地理的な見方考え方</p> <p>地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>①自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。</p> <p>②現代の世界を地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)を通して学ぶ。</p> <p>③現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）を理解する。</p> <p>④地理という学習（教科）が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を述べる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返すを行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、思考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○「地理的な課題」を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p>
	第2回	農林水産業 食料問題	
	第3回	エネルギー・鉱産資源 工業 第3次産業	
後 期	第4回	交通・通信 観光 貿易と経済圏	
	第5回	人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	日本史探究（日本史探究）	3	普通科	2
教材・副教材	詳説日本史（山川出版社） ゼミナル日本史（浜島書店）			
科目の目標	<p>社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多目的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	○第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 ○第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 ○第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道	○人類文化の発生以後の動きを、考古学の分野、東アジア世界との交流と関連付け考える。 ○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容から理解する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の変容を多角的・多面的に捉えて考察する。そのさい、国家仏教や東アジアとの関係に着目する。
	第2回	2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 ○第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 ○第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	○摂関政治の成立とその特色・大陸文化の消化と末法思想を前提とした貴族文化の成立を理解する。武士の成長と荘園の拡大の関係を理解する。 ○後三条天皇登場の背景を理解し、新たな院政を生み出したことを理解する。また、平氏政権の特色や院政との相違点を踏まえ時代を通観する。
後期	第3回	○第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化 ○第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	○鎌倉幕府の特徴を様々な史料の根拠を明確にして考察し、院政との相違を考え理解する。武士の成長、西国への発展を元寇による変化としてとらえる。 ○南北朝期の動乱から室町幕府成立の過程を、諸地域の動向を踏まえて理解し、庶民の台頭が社会秩序の変革の原動力として成長したことを考察する。
	第4回	2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 ○第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	○ヨーロッパ人の東アジア進出や、織豊政権の特色や意義を、世界史的背景を踏まえて考える。
	第5回	○第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	○江戸幕府の特徴を理解する。鎖国は単なる対外貿易の遮断ではないこと、町人の台頭が幕藩体制の動揺につながる背景となった点を理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	世界史探究（世界史探究）	3	普通科	2
教材・副教材	詳説世界史（山川出版社）			
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	世界の歴史の事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養うことができている。	世界の歴史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○小テスト○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	文明の誕生 古代オリエント文明／南アジアの古代文明 中国の古代文明／南北アメリカ文明 中央ユーラシア（草原とオアシスの世界）／秦・漢帝国／中国の 動乱と変容／東アジア文化圏の形成 仏教の成立と南アジアの統一国家 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 東南アジア世界の形成と展開	○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○絵画や資料などの文化資料を読み解くことで、当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響を理解できるようにする。 ○同時代的におこった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係を理解できるように促す。
	第2回	イラン諸国家の興亡とイラン文明 ギリシア人の都市国家／ローマと地中海支配 キリスト教の成立と発展 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 イスラーム教の諸地域への伝播・西アジアの動向	
	第3回	ヨーロッパ世界の形成／西ヨーロッパの封建社会 東ヨーロッパ世界の展開／西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化	
後期	第4回	アジア諸地域の自立化と宋／モンゴルの大帝国 アジア交易世界の興隆／清代の中国と隣接諸地域 オスマン帝国とサファヴィー朝・ムガル帝国の興隆	
	第5回	ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ルネサンス／宗教改革／主権国家体制の成立 オランダ・イギリス・フランスの台頭／北欧・東欧の動向	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	公共（公共）	2	普通科	2
教材・副教材	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
科目の目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 <p>※人間と社会の在り方についての社会的な見方・考え方 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としてのあり方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や論理などと関連付けて考える。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するために必要な概念や理論について理解する。諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ○現実社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画に向けて議論する力を養う。 ○よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間で主権を担う公民として、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。 <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉える。 ○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組合せながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせる。 ○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活用するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができた。	現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができた。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めることができた。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○振り返りシート○授業参加の態度	

年間指導計画			
期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○導入 1 公共的な空間と人間のかかわり ○導入 2 人間としてのあり方生き方 ○導入 3 選択の手がかりとなる倫理的価値 ○導入 4 自立した主体 ○導入 5 公共的な空間づくりを目指して 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共的な空間において、社会に参画するための自立した主体となることの意義を考える。 ○人間と社会のあり方を考察・構想するのに必要な「幸福・正義・公正」といった価値基準を身に付ける。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題 1 法や規範の意義と役割 <ul style="list-style-type: none"> 1 法と基本的人権 2 自由平等と法規範 ○主題 2 契約と消費者の権利・責任 <ul style="list-style-type: none"> 1 契約と法 2 消費者の権利と責任 ○主題 3 司法参加の意義 <ul style="list-style-type: none"> 1 裁判所と人権保障 ○主題 4 政治参加と公正な世論の形成 <ul style="list-style-type: none"> 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 立法と行政 4 地方自治と住民の福祉 ○主題 5 国際社会と国家主権 <ul style="list-style-type: none"> 1 国際法,領土問題 2 国際連合の役割と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の周りの偏見・差別, 不平等といった問題について理解し, その解決に向けて考察する。 ○個人や社会の紛争を法に基づき解決するしくみと国民が果たすべき責任を理解する。 ○対等な当事者間の合意にもとづく契約が, なぜ必要なのかを理解する。 ○選挙の意義や課題, 世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係, 地方自治の役割を理解する。 ○国際社会はどのように成立しているのか理解し, 領土問題の現状・国際連合の取組みを考える。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題 6 日本の安全保障と防衛 <ul style="list-style-type: none"> 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶 ○主題 7 国際社会の変化と日本の役割 <ul style="list-style-type: none"> 1 今日の国際社会 2 人種民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割 ○主題 8 雇用と労働問題 <ul style="list-style-type: none"> 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題 ○主題 9 社会の変化と職業観 <ul style="list-style-type: none"> 1 産業構造の変化と課題 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解し, 軍縮や核兵器の廃絶に向けて何が必要かを考える。 ○国際社会における必要な日本の役割を理解し, 人種・民族問題と地域紛争の背景・現状を踏まえ, 私たちに何ができるかを考える。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において, 将来の働き方をどのように考えていけば良いかを考える。
後期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題10 市場経済の機能と限界 <ul style="list-style-type: none"> 1 市場経済の経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉 ○主題11 金融の働き <ul style="list-style-type: none"> 1 金融の意義や役割 ○主題12 財政の役割と社会保障 <ul style="list-style-type: none"> 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ○需要・供給の関係を通し, 公正で自由な資源配分を実現できるしくみを理解する。経済活動から, 豊かに暮らすための指標について考える。 ○金融市場や中央銀行が経済にどのような役割を果たしているかを理解し投資の意義を考える。 ○少子高齢化が進む中, 財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていくべきか, その課題を含め考える。
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題13 経済のグローバル化 <ul style="list-style-type: none"> 1 国際分業と国際貿易 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化 4 地域的経済統合 5 貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから <p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○経済のグローバル化や, 地域経済統合の動きを通して, すべての人が幸福に暮らすために, 国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 ○持続可能な社会, 公共の精神をもった自立する主体となることに向けて, 幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	現代研究（現代研究a）	1	普通科	2
教材・副教材	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
科目の目標	具体的な事例を用いた法学習を通して、国家から認められた権利そしてそれが衝突する場合にどのような視点で判断を下すのか、裁判員制度も意識しながら学ぶ。また、地方自治や安全保障などの具体的事例を通して、公正・正義といった視点を身につける。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉(人文系)授業です。</p> <p>○政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。</p> <p>○民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付ける。</p> <p>○政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を身に付ける。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを説明できる力を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組み合わせながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代社会の諸課題の解決に向けて議論する力を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解することができる。また、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用することができる。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論できる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション ○簡易ディベート	○振り返りシート ○ワークシート ○授業参加の態度	

年間指導計画			
期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	○主題1 法や規範の意義と役割 1 法と基本的人権 2 自由平等と法規範	○基本的人権を獲得するまでの歴史的過程を概観したうえで、複雑化・多様化した現代社会では、どのような権利がどのような場合に衝突しているのか理解し、その課題について「幸福・正義・公正・平等」といった視点から深く考察する。 ○社会の変化に合わせて主張されている権利について、身近なルールや発生している問題から考察を深め、より良い社会に向けた法規範を考える。
	第2回	○主題2 契約と消費者の権利・責任 1 契約と法 2 消費者の権利と責任 ○主題3 司法参加の意義 1 司法にかかわる、模擬裁判	○契約には責任がともなうことを理解し、近年の契約をめぐるトラブルとその原因を考えながら、「かしこい消費者」としての意識を高める。 ○国民感覚を司法に採り入れるため始まった裁判員制度をはじめとした一連の司法制度改革がもたらした意義とその課題について理解する。また、模擬裁判を通じて、理性的に議論を展開することの重要性を学ぶ。
	第3回	○主題4 政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 地方自治と住民の福祉	○主権者である国民と国会・内閣の関係、代表者の役割などを理解したうえで、各選挙制度の長所・短所を「公正・正義」といった視点で考察する。 ○首長と地方議会の関係性を理解し、様々な制約を考慮したうえで、地域住民にとってより良い政策について「幸福・公正」といった視点で深く考察する。
後期	第4回	○主題5 国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 ○主題6 日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶	○領土問題に対して、当該国双方の主張の根拠を提示し、我が国の立場が国際法と照らし合わせても正当であることを理解する。 ○集団的自衛権の行使に対する考え方が、時代とともに変化し現在では限定的な条件のもと行使できるという閣議決定がなされたことを理解し、その正当性等について考察する。 ○現行憲法のもとでの自衛隊の役割とその解釈の変遷等を理解したうえで、我が国及び世界の平和を維持するための他国との関わりについて考察する。
	第5回	○ケーススタディ2 情報社会と知的財産権 1 情報社会の功罪 2 知的財産権 ○ケーススタディ3 資源エネルギー問題 1 資源の希少性とエネルギー生成 2 日本の目指す方向性	○情報化が進む社会で発生する問題の特質とその背景を理解し、あふれる情報に対するリテラシーを高める。また、情報技術のもたらす利便性の一方で複雑化・高度化する諸問題から私たちの生活を守ることの重要性を理解する。 ○持続可能な社会の実現に向けて資源の希少性を理解し、資源に乏しい日本の目指す方向性とその可能性を探究する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学Ⅱ（数学Ⅱa）		4	普通科	2
教材・副教材	新編 数学Ⅱ（数研出版） 3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。</p> <p>○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。</p> <p>○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。</p> <p>○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	○座標や式を用いて直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○座標や式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解できるようにする。
	第2回	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ○加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第3回	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	○指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
後期	第4回	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。
	第5回	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	○積分について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学Ⅱ（数学Ⅱβ）		3	普通科	2
教材・副教材	新編 数学Ⅱ（数研出版） 3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。</p> <p>○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。</p> <p>○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。</p> <p>○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	○座標や式を用いて直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○座標や式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解できるようにする。
	第2回	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ○加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第3回	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	○指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
後期	第4回	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。
	第5回	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	○積分について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学Ⅲ（数学Ⅲ）	1	普通科	2
教材・副教材	新編 数学Ⅲ（数研出版） 3TRIAL 数学Ⅲ（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○極限についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数列や関数の値の変化に着目し極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第5回	第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 第2章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 第2節 関数の極限 4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2) 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性	○分数関数や無理関数の性質を理解し、方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数について理解し、事象の考察に活用できるようにする。 ○数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。 ○数列の極限と関連させて、関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学 B（数学 Bα）		1	普通科	2
教材・副教材	新編 数学 B（数研出版） 3TRIAL 数学 B（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、前期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○離散的な変化の規則性に着目し事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	○数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。
	第2回	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	○和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにするとともに、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。
	第3回	第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名 (校内科目名)		単位数	学科	年次
数学	数学 B (数学 Bβ)		1	普通科	2
教材・副教材	新編 数学 B (数研出版) 3TRIAL 数学 B (数研出版)				
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。				
講座内容	※この授業は、前期、習熟度別授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○離散的な変化の規則性に着目し事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	○数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。
	第2回	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	○和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにするとともに、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。
	第3回	第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学 C（数学 Ca）	1	普通科	2
教材・副教材	新編 数学 C（数研出版） 3TRIAL 数学 C（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○大きさや向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的，体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は，後期，選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで，授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し，まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し，対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では，学習したことを振り返り，繰り返し演習することで，知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し，思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し，統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し，数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて，粘り強く，柔軟に考え，その過程を振り返り，考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○大きさや向きをもった量に着目し演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目しそれらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第4回	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	○向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示を含めてベクトルの演算ができるようになる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ○位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。
	第5回	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	○平面上のベクトルの拡張として、空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学 C（数学 Cβ）		1	普通科	2
教材・副教材	新編 数学 C（数研出版） 3TRIAL 数学 C（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的，体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は，後期，習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで，授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し，まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し，対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では，学習したことを振り返り，繰り返し演習することで，知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し，思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し，統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し，数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて，粘り強く，柔軟に考え，その過程を振り返り，考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○大きさと向きをもった量に着目し演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目しそれらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第4回	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	○向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示を含めてベクトルの演算ができるようになる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ○位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。
	第5回	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	○平面上のベクトルの拡張として、空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学探究（数学探究a）	2	普通科	2
教材・副教材	新編 数学 I（数研出版），新編 数学 II（数研出版） 新編 数学 A（数研出版），新編 数学 B（数研出版），新編 数学 C（数研出版）			
科目の目標	下記の内容について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学のよさを認識できるようにする。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○数学の基礎を学んだ後、数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え、数列、ベクトル、統計的な推測について、初等幾何学やグラフのシミュレーションを交えて理解を深める。</p> <p>○図形関係については、教材をパワーポイントによって作成し、定理やその証明の過程が理解しやすいようにアニメーションで提示する。</p> <p>○解析関係の問題については、解説プリントや問題演習を通して、幅広い数学的な知識や思考力が身につくように配慮する。</p> <p>○関数グラフソフトを利用したグラフ処理については、一般的な使用説明の後、生徒一人ひとりに研究課題を考えさせ、シミュレーションを作成させてそれを発表させる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	○場合の数と座標平面 ○二次関数の係数とグラフ ○三角形の最大角・最小角 ○身近なデータの分析	○ $a+b=n$ について考察した後、座標平面の軸を変え $a+b+c=m$ についても考察させる。 ○グラフ作成ソフトを使い係数値を変化させたときのグラフの変化を観察し、関係性に気づかせる。また、 y 軸との交わり方に注目させ、 b の値との関係性に気づかせる。 ○てこクラック機構の簡単な模型を使って動かし、観察させる。頂点の動く範囲に注目させ、そこから特定の角の最大値・最小値を考察させる。 ○データの処理ではなく、分析が重要であるため、散布図等の作成はコンピュータを活用させる。
	第2回	○二人令和有限確定完全情報ゲーム ○ベイズの定理	○三目並べゲームを行い、初手と2手目までの場合の数を考えさせ、先手の初手の最善手を考察させる。 ○証明のために必要となる知識を学ばせる。数値の処理にコンピュータを活用させる。
	第3回	○震度と対数 ○定積分と囲まれる面積	○揺れの大きさを表す単位 $G a l$ を用いたグラフと震度で表したグラフを比較させて、その違いを考察させる。対数関数のグラフの特徴から震度で表す必要性に気づかせる。 ○曲線と x 軸で囲まれる面積を長方形の面積と比較して、極限の考えを使うことで定積分と面積の関係性に気づかせる。
後期	第4回	○フィボナッチ数列 ○複利計算	○隣接3項間の漸化式の解き方を学習させフィボナッチ数列の一般項を求めさせる。パスカルの三角形を書き換えることで、その和にフィボナッチ数列が含まれていることに気づかせる。それを計算し、フィボナッチ数列になることを証明させる。 ○現実社会で設定されている数値をもとに考察させ、指数関数の有用性に気づかせる。また、等差数列や等比数列の知識も活用されていることに気づかせる。
	第5回	○ベクトル方程式	○直交座標平面上での直線の図示について復習した後、ベクトル方程式についても斜交平面上で同様に考えられることに気づかせる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	物理基礎（物理基礎α）	1	普通科	2
教材・副教材	高等学校 物理基礎（第一学習社）			
科目の目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して，物体の運動とエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>			
講座内容	<p>※ この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○様々な現象について観察，実験などを通して，規則性や関係性を見いだして表現できるようにする。</p> <p>○日常現象に興味を持ち，複雑な物理現象について理解できるようになる。</p> <p>○これまでに得た知識を用いて，日常生活や社会を支えている科学技術に興味・関心をもつことができるようになる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○気柱の共鳴に関する実験などを行い，物理現象を物理量と関連づけて理解することができる。</p> <p>○運動を表す式や法則を用いて，問題を解くことができる。</p> <p>○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。</p>	<p>○電気抵抗の測定実験のようすなどをグラフで表し，それらから式や法則を見出すことができる。</p> <p>○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。</p>	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探求していく態度を育むことができる。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○実験</p>	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○授業にのぞむ姿勢</p> <p>○授業ノート</p> <p>○課題</p>	

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第Ⅱ章 熱 第1節 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 ○熱に関する実験などを行い、熱容量、比熱、熱量の保存などを理解する。
	第2回	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	<ul style="list-style-type: none"> ○ばねやひもなどを用いて波が伝わるようすを観察し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなど、波の基本的な特徴を理解する。 ○波動実験器などを用いて、波の重ね合わせや独立性、定常波、波の反射について理解する。 ○気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連づけて理解する。
	第3回	第Ⅳ章 電気 第1節 静電気と電流	<ul style="list-style-type: none"> ○静電気について基本的な特徴を学び、帯電のしくみを理解する。 ○オームの法則を学習し、電気抵抗の測定実験などを通して、導体の長さ、断面積と電気抵抗の関係を扱い、物質の抵抗率について理解する。ジュール熱が発生するしくみを学び、電力量と電力について理解する。
後 期	第4回	第Ⅳ章 電気 第2節 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> ○磁場の性質について学び、電流がつくる磁場の特徴を理解する。 ○モーターと発電機のそれぞれの原理について理解する。 ○直流と交流の性質を学習し、発電や送電について、交流発電機や変圧器と関連づけて理解する。 ○電磁波の特徴を学び、電磁波が現代の社会生活に広く利用されていることを理解する。
	第5回	第Ⅳ章 電気 第3節 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> ○太陽光、水力、風力、化石燃料、原子力などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、電気エネルギーへの変換を中心に、物理的な観点から理解する。 ○放射線の種類と性質、放射性物質の基本的な性質、および原子力の利用とその課題について理解する。

* 年間指導計画は予定であり,変更がある場合には,連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	物理（物理β）		3	普通科	2
教材・副教材	高等学校 物理（第一学習社）				
科目の目標	<p>物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする程度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○様々な現象について観察，実験などを通して，規則性や関係性を見いだして表現できるようにする。</p> <p>○身のまわりの音や光といった日常現象に興味を持ち，複雑な物理現象について理解できるようになる。</p> <p>○歴史的な実験に触れ，これまでの物理学発展の歴史を感じることができるようになる。</p> <p>○これまでに得た知識を用いて，今後の物理学や科学技術の発展に対する興味，関心をもつことができるようになる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○物体の衝突や波の性質を確認する実験などを行い，様々な物理現象の法則性を理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○運動している物体や気体分子，光の実験のようすを図や矢印で表し，それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探究していく態度を育むことができる。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第 I 章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 第2節 剛体のつりあい	<ul style="list-style-type: none"> ○平面運動をする物体の変位，速度，加速度がベクトルで表されることを学習し，速度の合成，相対速度についても理解する。 ○力のモーメントとは何かを理解する。 ○大きさのある物体のつりあいに関する実験などを行い，剛体がつりあう条件を見出して理解する。 ○物体の重心について理解する。また，日常生活とのかかわりの中で，防災などの観点から，物体が転倒しない条件についても理解する。
	第2回	第 I 章 運動とエネルギー 第3節 運動量の保存 第4節 円運動と単振動	<ul style="list-style-type: none"> ○運動量の性質を学習し，運動量と力積との関係について理解する。 ○物体の衝突や分裂に関する実験などを行い，運動量保存の法則について理解する。 ○反発係数について学習し，物体の衝突における力学的エネルギーの変化を考察する。 ○円運動をする物体のようすを表す方法や，物体にはたらく力などを理解する。また，慣性力について理解する。
	第3回	第 I 章 運動とエネルギー 第4節 円運動と単振動 第5節 気体の性質と分子の運動	<ul style="list-style-type: none"> ○単振動をする物体のようすを表す方法や，物体にはたらく力などを理解する。 ○惑星の運動に関する法則や，万有引力の法則，万有引力による物体の運動について理解する。 ○気体について成り立つ法則を理解する。 ○気体の圧力や温度を気体分子の運動と関連づけて学習し，気体の内部エネルギーについて理解する。 ○気体の状態変化について，熱，仕事，内部エネルギーの関係を学習し，熱機関のしくみを理解する。
後 期	第4回	第 II 章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	<ul style="list-style-type: none"> ○水波投影装置を用いた観察などを通して，光の干渉について理解する。 ○波の伝わり方（反射，屈折，回折）について，ホイヘンスの原理をもとに理解する。 ○身のまわりの現象と関連づけて，波としての音の性質（反射，屈折，回折，干渉）について理解する。 ○ドップラー効果について，観測者と音源が同一直線上を動く場合を中心に理解する。
	第5回	第 II 章 波動 第3節 光波	<ul style="list-style-type: none"> ○波としての光の性質を学び，光の反射，屈折，分散，散乱，偏光について理解する。 ○レンズや鏡について，光の進路の規則性や像のでき方を理解する。 ○光の回折と干渉に関する実験などを行い，回折と干渉について光波の性質と関連づけて理解する。

* 年間指導計画は予定であり,変更がある場合には,連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	化学基礎（化学基礎a）		2	普通科	2
教材・副教材	i版化学基礎（啓林館）				
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○化学と人間生活とのかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解させるとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けさせる。</p> <p>○原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。</p> <p>○化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○ 定期考査 ○ 観察・実験	○ 観察・実験	○ 授業態度 ○ 課題		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素	○日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	第2回	II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	
	第3回	II 物質の構成 2 化学結合	
後 期	第4回	III 物質の変化 1 物質と化学反応式 III 物質の変化 2 酸と塩基	
	第5回	III 物質の変化 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	化学基礎（化学基礎β）		2	普通科	2
教材・副教材	i版化学基礎（啓林館）				
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
講座内容	<p>※この授業は、前期、一斉授業です。</p> <p>○化学と人間生活とのかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解させるとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けさせる。</p> <p>○原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。</p> <p>○化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○ 定期考査 ○ 観察・実験	○ 観察・実験	○ 授業態度 ○ 課題		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素 II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	○日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
	第2回	II 物質の構成 2 化学結合 III 物質の変化 1 物質と化学反応式	○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	第3回	III 物質の変化 2 酸と塩基 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界	
後 期			

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	化学（化学β）		2	普通科	2
教材・副教材	高等学校 化学（啓林館）				
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
講座内容	<p>※この授業は、後期、一斉授業です。</p> <p>○気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。</p> <p>○化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 課題 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期			○化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
			○化学的な事物・現象を観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
			○日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり科学的に探究しようとする態度を養う。
後 期	第4回	I 物質の状態 1 物質の状態 2 気体の性質 3 溶液の性質 4 固体の構造	
	第5回	II 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱・光 2 電池と電気分解 III 化学反応の速さと平衡 1 化学反応の速さ 2 化学平衡 3 水溶液中の化学平衡	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名 (校内名称)	単位数	学科	年次
理科	生物基礎(生物基礎a)	1	普通科	2
教材名・副教材名	高等学校 生物基礎 (数研出版) スクエア最新図説生物 (第一学習社) リードa生物基礎 (数研出版)			
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ※理科における見方・考え方 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。			
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○生物の特徴について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。 ○ヒトの体の調節について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。 ○生物の多様性と生態系について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究に必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探究していく態度が身についている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成	生物の多様性と共通性について理解し、その共通性が共通の起源をもつことに由来することを学習する。
	第2回	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	遺伝子の本体である DNA について、構造およびそのはたらきについて理解し、細胞に正確に複製されて受け継がれていくことを学習する。
	第3回	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ	多細胞生物において、体内環境がいかんして一定に保たれているかを理解する。さらに、そのしくみとして、自律神経系と内分泌系・免疫を学習する。
後 期	第4回	第4章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき	地球上に見られるさまざまな環境によってどのようなバイオームが分布しているかを学習する。また、人類が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げ自然環境を保全することが大切であることを理解する。
		第5章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム	
	第5回	第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物（生物β）		3	普通科	2
教材名・副教材名	生物（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍）				
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1)生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 ※理科の見方・考え方 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○生物の進化について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生物の進化についての特徴を見いだして表現すること。 ○生命現象について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生命現象と物質についての特徴を見いだして表現すること。 ○遺伝情報の発現と発生について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、遺伝子発現の調節の特徴を見いだして表現すること。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生物現象についての観察、実験を通して、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験、調査等に関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象を対象に、問題を見いだすための観察、実験、調査及び、報告書の作成・発表などを行うことにより、科学的に探究する力が身に付いている。	生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。生命を尊重し、環境の保全に寄与する態度や自然の事物・現象を考察しようとする態度が身に付いている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前	第1回	第1章 生物の進化	
		1. 生命の起源と生物の進化	原始地球と有機物の生成有機物から生物へ、生物の出現とその発展、真核生物の出現などを理解することで生物の多様性や共通性を理解する。
	第2回	2. 遺伝子の変化と多様性	遺伝子の突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。
		3. 遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂と受精、染色体と遺伝子、遺伝子の組み合わせの変化遺伝子と形質、ゲノムの多様性を理解する。
		4. 進化のしくみ	進化と突然変異、集団としての進化、実際の生物集団と進化、種分化について理解する。
		5. 生物の系統と進化	生物の分類、生物の系統と系統樹、生物の系統と分類について理解する。
期	第3回	6. 人類の系統と進化	人類の祖先、人類の進化について理解する。
		第2章 細胞と分子	
		1. 生体物質と細胞	細胞を構成する物質、原核細胞と真核細胞の構造真核細胞の構造と機能、生体膜の構造を理解する。
		2. タンパク質の構造と性質	タンパク質とは、タンパク質の構造、タンパク質の立体構造と機能などについて理解する。
	後	第4回	3. 化学反応にかかわるタンパク質
4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質			膜輸送にかかわるタンパク質、情報伝達にかかわるタンパク質について理解する。
第3章 代謝			
期	第5回	1. 代謝とエネルギー	生物とエネルギー、生体内の化学反応について理解する。
		2. 呼吸と発酵	呼吸とは、呼吸の過程、発酵、脂肪とタンパク質の分解について理解する。
		3. 光合成	光合成とは、光合成のしくみ、細菌の光合成について理解する。
	第5回	第4章 遺伝情報の発現と発生	
		1. DNAの構造と複製	DNAの構造、DNAの複製を理解する。
第5回	2. 遺伝情報の発現	遺伝情報とその発現、転写とスプライシング、翻訳、真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違いを理解する。	
	3. 遺伝子の発現調節	遺伝子の発現調節、原核生物の発現調節、真核生物の発現調節について理解する。	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育	体育（体育）	3	普通科	2
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）			
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって運動、スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。 ○課題解決のために思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。 ○仲間と競争や協働の経験を通して、互いに認め合い、高め合うことができる。 <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体づくり運動」では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整え体力の向上を図る。 ○「体育理論」では、体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。 ○選択制授業では、生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう、また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用する力：chromebook や iPad などの ICT ツール等を活用し、スキルアップの方法や自己の運動課題を解決することができる。 ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール、試合の進め方等を理解し、実践することができる。また、各種目に必要な技能や体力を身につけ、努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し、話し合い活動へ積極的に関わったり、課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また、自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント ○相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント（記述） ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	<p>○様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。</p> <p>○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。</p> <p>○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。</p> <p>○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。</p>
		選択制授業前期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
		ダンス 体づくり運動	
		選択制授業中期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
後 期			
		体育理論	
		選択制授業後期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール サッカー・テニス	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育	保健（保健）	1	普通科	2
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
科目の目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯の各段階で健康課題が変化することを理解するとともに、健康が保持増進される仕組みなどの知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。 ○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。 ○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。 <p>※保健の見方・考え方とは、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生涯を通じる健康」では、思春期から中高年期までに出会う様々な健康問題について学ぶとともに、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進される仕組みなどについて学習する。 ○「健康を支える環境づくり」では、周囲の自然環境や食品に関する健康問題を学ぶとともに、社会の制度や保健活動といった社会環境のあり方について学習する。また、社会全体の健康を高めるために、私たち一人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義やその方法について学習する。 <p>具体的な単元：「思春期と健康」「妊娠・出産と健康」「働くことと健康」 「環境と健康にかかわる対策」「食品衛生にかかわる活動」など</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：教科書だけにとらわれず、目の前で起こっている健康課題も学び、社会に出た際に活用できる知識を身に付ける。 ○情報を活用する力：グループでの調べ学習では、たくさんの情報から選択していく力が身につく。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、その技能が身に付いている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる力が身についている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、課題の解決に向けた学習づくりに主体的に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など	○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物 など	○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
芸術	音楽Ⅱ（音楽Ⅱa）		2	普通科	2
教材・副教材	MOUSA2（教育芸術社）				
科目の目標	<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養うことができる。</p> <p>※音楽的な見方・考え方</p> <p>感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○歌唱表現・器楽・創作において、それぞれに関する知識や技能を得て生かしながら、個性豊かに創意工夫できる。</p> <p>○鑑賞に関わる知識を得て生かしながら、曲や演奏に対する評価と根拠や音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりなどを理解し、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解し、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。 表現携帯の特徴や表現上の効果を生かし、他者との調和を意識して演奏している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、関わりについて考えるとともに、どのように音楽をつくりあげるかについて独自の表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術	美術Ⅱ(美術Ⅱa)	2	普通科	2
教材・副教材	美術 2(光村図書)			
科目の目標	<p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p> <p>○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>○主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p>※造形的な見方・感じ方 感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○アイディアスケッチ等を活用し、自分の考えや表現したいイメージをより深く追求していく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら、創造活動の幅を広げる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じてながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深めている。 教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。	アイディアスケッチで自分の思いや考えをまとめることができる。 授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。	他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映しようとしている。 感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○提出作品	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術	書道Ⅱ（書道Ⅱ）	2	普通科	2
教材・副教材	書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標	<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と深く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>○楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。</p> <p>○臨書で培った筆法により、創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。</p> <p>○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で、書に関する見方・考え方を働かせ、自分の考えや感じたことを話せるようにする。</p> <p>○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。</p> <p>※書に関する見方・考え方</p> <p>書の特質に即して物事をとらえる視点や考え方で、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○書道Ⅰの内容をふまえ、書写からより芸術的書道の内容に深く入っていく。</p> <p>○おもに創作を中心に書きたい語句を選択し、美しく表現した上で、作品として鑑賞できるよう、表具も仕上げる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○作品の評価	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
外国語	英語コミュニケーションⅡ（英語コミュニケーションⅡ）		4	普通科	2
教材・副教材	LANDMARK English Communication Ⅱ（啓林館） 真・英文法大全（株式会社 KADOKAWA） LANDMARK English Communication Ⅱワークブック(啓林館)				
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に考えを表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切にします。学習したことを振り返り、読解問題などに自主的に取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れていきます。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などでより上位の級の合格を目指す。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Tips for Presenting Your Ideas Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan	<p>○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。</p> <p>○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけさせると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高めさらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せる力を身につけさせる。</p> <p>○授業中はペアやグループでの活動において、英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。</p>
	第2回	Lesson 2 A Message from Emperor Penguins Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle	
	第3回	Reading 1 The Selfish Giant Lesson 4 Seeds for the Future Lesson 5 Language Change over Time Lesson 6 Gaudi and His Messenger Lesson 7 Letters from a Battlefield	
後期	第4回	Lesson 8 Edo: A Sustainable Society Lesson 9 Biodiesel Adventure: From Global to Glocal	
	第5回	Lesson 10 Our Future with AI Reading 2 Gender Equality Is Your Issue, Too	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
外国語	論理・表現Ⅱ（論理・表現Ⅱ）		2	普通科	2
教材・副教材	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ（開隆堂） APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ WORKBOOK（開隆堂） 真・英文法大全(株式会社 KADOKAWA)				
科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやりとりができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。 ※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。				
講座内容	※この授業は、通期、習熟度別授業です。 ○設定されたテーマ・課題に対して、ペアワーク・グループワークなどを通して互いに質問や意見交換を行うことで内容の理解を深化させるとともに、聞き手や目的を意識して簡潔に話したり、書いたりする活動に積極的に取り組みます。 ○教科書の本文を利用して、「書く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」活動の基礎となる文法事項や語彙、表現を学習するとともに、それらを目的や場面、状況に応じて活用できるようにする。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れていきます。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などでより上位の級の合格を目指す。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満 できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね 満足 できる	各トピックの内容や各文法事項の用法を理解している。 各文法項目をタスクの中で適切に使う技能を身につけている。	場面・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で論理的に詳しく話したり書いたりしている。	学習した表現を活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。 自分の発言や書いたりしたものを振り返ろうとしている。	
	C 努力を 要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Lesson 1 Reflections Before Starting a New Life (文法項目) 現在と過去を表す表現 Lesson 2 Let Your Dreams Come True (文法項目) 未来を表す表現 Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Media (文法項目) 助動詞	○英語を理解し英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。
	第2回	Lesson 4 Future Prospects (文法項目) 完了形 Lesson 5 Let's Keep in Good Shape (文法項目) 受動態 Lesson 6 Energy Consumptions in the World (文法項目) 比較①	○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ次回必ず表現できるように徹底的に復習する。
	第3回	Lesson 7 Voter Turnout in Comparison (文法項目) 比較② Lesson 8 What Has Impressed Me the Most (文法項目) 動名詞 Lesson 9 Sports for Everybody (文法項目) to 不定詞	
後期	第4回	Lesson 10 The Latest News from around the World (文法項目) 分詞 Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others (文法項目) 関係詞① Lesson 12 Learn about Other Countries and People (文法項目) 関係詞②	
	第5回	Lesson 13 Global Issues (文法項目) 仮定法 Lesson 14 Food Culture around the World (文法項目) 特殊構文	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
情報	情報Ⅱ（情報Ⅱ）		2	普通科	2
教材・副教材	高校情報Ⅱ（実教出版）				
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。 ○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。 ○情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 <p>※情報に関する科学的な見方・考え方 情報に関する科学的な見方・考え方について、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>この科目は、情報Ⅰの次のステップであり、情報Ⅰは課題を解決する手がかりを学ぶのに対して、情報Ⅱでは具体的な解決方法尾を学ぶ。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：情報に関する用語など基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。 ○情報を活用する力：様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。 ○論理的・批判的に思考する力：ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的に理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けている。	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。	情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に起用しようとする態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業での活動 ○提出物 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	第1章 情報社会	<p>○情報技術の発展による人や社会への影響に着目し、情報社会の進展と情報技術の関係を歴史的に捉え、将来の情報技術を展望する活動を通して将来の情報技術と情報社会の在り方等について討議し発表し合う活動を通して情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解する力を養う。</p> <p>○多様かつ大量のデータを活用することの有用性に着目し、データサイエンスの手法によりデータを分析し、その結果を読み取り解釈する活動を通して目的に応じた適切なデータの収集や整理、整形について理解する力を養う。</p>
		第2章 データサイエンス	
前期	第3回	第3章 プログラミング言語	<p>○実際に稼働している情報システムを調査する活動や情報システムを設計し制作する活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報システムの仕組み、情報セキュリティを確保する方法、情報システムを設計しプログラミングする方法を理解し、必要な技能を身に付けるようにするとともに、情報システムの制作によって課題を解決したり新たな価値を創造したりする力を養う。</p>
		第4章 情報システム	
後期	第4回	第4章 情報システム	<p>○情報システムの設計とプログラミングに関わろうとする態度、自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度、自らの問題解決の過程を振り返り、改善・修正しようとする態度、情報セキュリティなどに配慮しようとする態度を養う。</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
体育	スポーツ I（スポーツ I a）	2	普通科	2	
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）				
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につける。 ○採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ○採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。 <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「採点競技」については、主に体操競技を、「測定競技」については、主に陸上競技を取り扱い、技能の向上を図る。 2 スポーツを推進及び発展するための事項を理解できるようにし、体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えてスポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践する力を身につける。 3 映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えることができる力を育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高くで挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力	志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	スポーツを推進及び発展するための事項を理解し、多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身につけている。	映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での公正・協力・責任など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント ○相互評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 ○まとめプリント（記述） ○相互評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など 		

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	学科	年次
英語	エッセイライティング I (エッセイライティング I a)	2	普通科	2
教材・副教材	Logical English Reading Level 1 (三省堂) 真・英文法大全(株式会社 KADOKAWA) APPLAUSE ENGLISH LOGIC and EXPRESSION II (三省堂) APPLAUSE ENGLISH LOGIC and EXPRESSION II Workbook (三省堂)			
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、書くことの領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。 (1) 書くこと ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。			
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○日常的な話題について、必要に応じて、言語材料や文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、英語を聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。 ○社会的な話題について、必要に応じて、言語材料や文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、英語を聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などでより上位の級の合格を目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	自分の意見を、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を理解している。	日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えている。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○パフォーマンステスト ○小テスト	○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	01 Should homework be banned? 02 Should smartphones be banned in schools ?	<p>○自分の意見を，論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を正しく理解させる。</p> <p>○日常的な話題や社会的な話題について，情報や考え，気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる力を養う。</p> <p>○授業中はペアやグループでの活動において，英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。</p>
	第2回	03 Should high school students be allowed to have a part-time job? 04 Should national and public colleges be free?	
	第3回	05 Should all Internet users use their real names on social media? 06 Do online games do more harm than good?	
後 期	第4回	07 Is online education better than offline education?	
	第5回	08 Should Japanese high school students study abroad?	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
英語	プラティカルイングリッシュ（プラクティカルイングリッシュα）	2	普通科	2
教材・副教材	LANDMARK English Communication I (啓林館) LANDMARK English Communication II (啓林館) 真・英文法大全(株式会社 KADOKAWA)			
科目の目標	英語によるコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行いながら、英語で書かれた文章を読んで、情報や意見を的確に理解する力を育むとともに、英語で自分の意見を書いたり、情報をまとめるなどの表現力を養う。			
講座内容	<p>この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>1 リーディング活動 最新的话题やテーマを含んだ英文を読み、英文の背景にある文化や、国際社会の諸問題などについて考察し、異文化理解を深めさせる。また、内容や構文の複雑な英文を読みながら、英文読解力の向上を図る。</p> <p>2 ライティング活動 英語やその運用についての知識を身に付けるとともに、論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある英文を書く。また、既習の英文に自分の意見を付け加えたり、学習したことをメッセージとして発信できるようにする。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などでより上位の級の合格を目指す。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物 ○小テスト ○授業態度の観察 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	English Communication I Lesson 1 Enjoy Your Journey ! Lesson 2 Curry Travels around the World Lesson 3 School Uniforms Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima	<p>○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。</p> <p>○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。</p> <p>○授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が求められる。</p> <p>○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。</p>
	第2回	Lesson 5 Bailey the Facility Dog Lesson 6 Communication without Words Lesson 7 Dear World: Bana's War Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere	
	第3回	Lesson 9 Space Elevator Lesson 10 Friendship over Time English Communication II Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	
後 期	第4回	Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson 4 Seeds for the Future Lesson 5 Language Change over Time Lesson 6 Gaudi and His Messenger	
	第5回	Lesson 7 Letters from a Battlefield Lesson 8 Edo: A Sustainable Society Lesson 9 Biodiesel Adventure: From Global to Glocal	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。